

規格外品を小学生に知ってもらおう

9班

要旨

令和6年度に発生した能登半島地震により、能登の農家が大きな被害を受けた。そこで、能登の農家を助けるために規格外品に着目した。インターネットで調査し、地球を考える食卓（<https://thinkearthtable.jp/tet-learn-kikakugai-yasai/>）によると、能登の野菜の1割が規格外品として廃棄されているとわかった。廃棄量を減少させるには、規格外品に対する意識を変えればよいと考えた。そのため若い世代に今の能登の現状を伝えて関心を持ってもらい、規格外品に対する意識を変えるための活動として、将来の能登を担う小学生を対象として山王小学校の小学6年生に授業としてプレゼンテーションとクイズを行った。その授業から、規格外品について知ってもらうことはできたが、能登の農業と結びつけて考える機会が少なかったと感じる。今後はより地域と規格外品とのつながりが持てる授業を考えていきたい。

1.研究背景と目的

昨年度から、能登半島地震をきっかけに発生した能登の課題について調べていた。

能登地域は、2011年に世界農業遺産に認定されており、農林水産業と強いつながりを持っている。そのため、能登の農家の課題を解決することが能登の課題解決に繋がると考えた。

私たちは能登の農家に着目し研究を進める中で、規格外品という理由で廃棄されている農作物の存在に気づいた。そして、規格外品という理由で破棄される野菜が多いことがわかった。規格外品が捨てられている主な理由は流通システムと消費者の選別意識が挙げられる。流通システムに関しては、私たち高校生が直接変えることは難しいが、消費者の選別意識を変える活動なら可能であると考えた。消費者の選別意識については、形や色などが規格品と比べて美味しくなさそうに見えてしまうため、その偏見をなくせば規格外品を購入する人が増えるのではないかという仮説を立てた。そのため、能登の農家に目を向けて規格外品をより多くの人に知ってもらい、能登の農家に還元することができると考えた。本研究では、規格外品の普及活動を通して、将来的な能登の課題解決に役立てることを研究の目的とする。

2.調査・分析

インターネットで能登の野菜の廃棄の割合を調査をしたところ、能登の野菜の13%が規格外品として廃棄されているとわかった。廃棄される規格外品を減らすために、規格外品の魅力を伝える必要があると考えた。

プレゼンテーションは小学生を対象にした。将来能登を背負っていく若い世代にこそ知ってもらいたいと考えたためである。また、規格外品について興味・関心を芽生えさせ、人に教えたいという気持ちになって周囲の人に伝えるという効果も期待した。

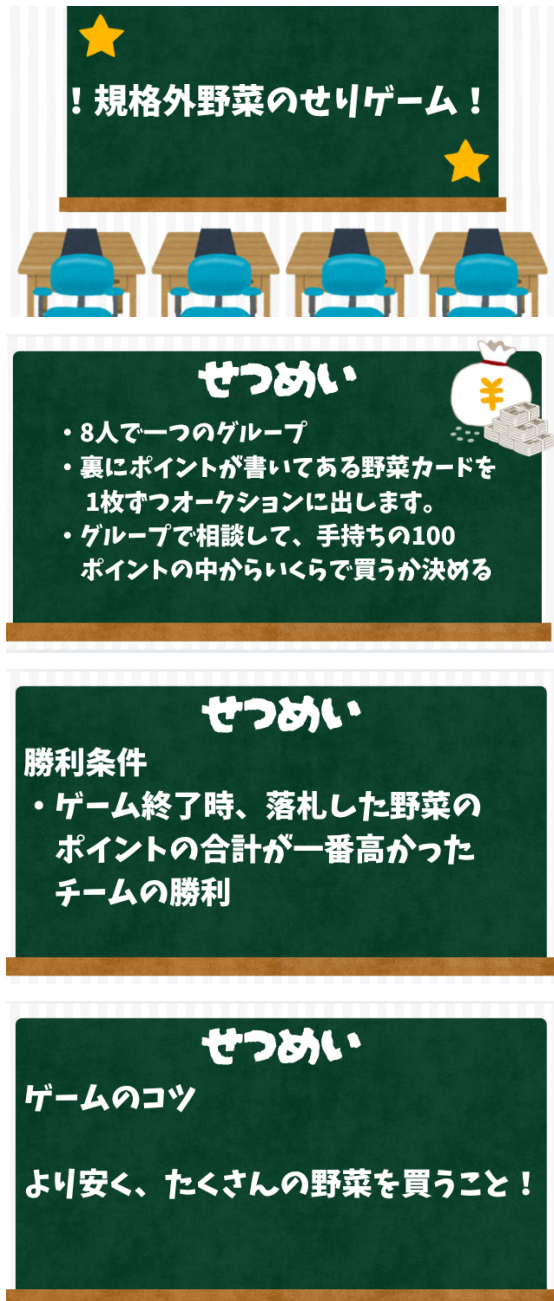
3.解決に向けた提案と実践

私たちが、小学生へのプレゼンテーションを実施する中で、最も伝えたいと思った点は、規格外品は見た目が悪くても味は規格品のものと同じであるということだ。この理由は味が同じであることを知って貰えば、規格外品も同じように食べようという意識が高まり、規格外品の廃棄の減少につながると考えたためである。そこで山王小学校の6年生を対象に学活の45分間をいただき発表を行った。まず規格外品への興味を持ってもらうため規格外品についての5分ほどの劇を行った。次にスライドを用いて発表を行った。スライドに実際の写真やイラストを入れて話すことで小学生が視覚的に理解できることを目的とした。このスライドを通して規格外品についての説明や規格外品が生まれる理由、規格外品が廃棄されてしまうことのデメリットについての説明をした。小学生が楽しみながら理解できるようにいくつかのクイズを交えながら行った。そして実際に交流しながら規格外品について理解を深めてもらうために「野菜のせりゲーム」を行った。スライド発表を通して規格外品に対して関心を持ってもらうため、ゲームを通してさらに関心を高めることを目的とした。小学生が買う野菜の中にはきれいな野菜もあれば、傷がついていたり、形が歪なものもある。しかし、すべての野菜を50ポイントで設定した。私たちがこのようにした理由は、規格外品でも既成品と味が変わらないことを知ってもらうためだ。

授業が終わり、小学生と振り返りをした。その中で「規格外品は既成品と味が変わらないことを知った。」「実際にスーパーに行って規格外品と既製品を比べてみたいと思った。」などの声が聞かれたことで、規格外品について知ってもらい、規格外品の味が普通のものと同じであることも理解してもらえたと推察できる。この活動続けることで能登に住む若い人たちが規格外品について興味を持ってくれると期待する。また、小学生が規格外品に興味を持ってくれたこともわかる。私たちの指導案を他の小学校にも共有す

ることで他の小学生にも規格外品について興味を持ってもらえ考えた。

また今回参加させていただいた山王小学校六年生だけでなく、他の学年や他の学校でも行えるように指導案を作成した。(表1)



4.考察

私たちの指導案を石川県教育委員会に提示し、許可が降りたら他の小学校にも共有することで他の小学生にも規格外品について興味を

持ってもらえ考えた。また、実際の小学校の授業で行ってもらうことで、地域の農業を深く理解することができ、将来の地域貢献につながるかと推測した。

また、指導案を作った事によって、私達が授業をしなくても、より多くの小学生に規格外品を知ってもらうことができる。その小学生が規格外品に興味を持ち、規格外品の購入につながる事が期待できる。

5.今後の課題と展望

この授業では、規格外品とは何かや、規格内品との違いについて説明したり、規格外品に関するクイズを行ったりしたことで、児童に規格外品について知ってもらうことができた。しかし、授業を振り返ると、規格外品について「知る」という段階で終わってしまい、その後の行動や考え方の変化につなげることができなかったことや、能登の農業と規格外野菜がどのように繋がっているのかを伝えられなかったことが課題として挙げられる。授業中には、「もったいない」「実際に買ってみよう」といった意見が多く見られ、規格外品に興味をもつ児童は多かった。しかし、「規格外品の廃棄による食品ロスを減らすために自分にできることは何か」、「このような行動をすることで能登の農業がどう変わるのか」まで考える活動が十分ではなかったため、学んだことを日常生活や能登の農業の課題解決につなげることができなかったと考えられる。今後は、規格外品について知識を伝えるだけではなく、児童が自分自身の生活や、能登の農業と結び付けて考えられる授業にすることや、将来児童が大人になったときにこの授業を思い出してもらえよう働きかけることが必要である。そのためには、実際に規格外品を見たり触れたりする活動や、実際に能登の農家さんの話を聞く、規格外品を使った食品の紹介や調理実習など、体験を取り入れた学習を行い、規格外品は身近なものなんだと感ずることが効果的だと考える。また、授業の最後に「今日から自分にできること」を考え

る時間や授業の振り返りの時間を設けることで、学習内容を身近な問題として捉え、行動につなげるきっかけをつくることができるのではないかと思います。今回の授業を通して、児童に規格外品について知ってもらおうという目標を達成することができたが、知識を身に付けるだけでなく、その知識を行動につなげることができる授業づくりには改善の余地があると感じた。この反省を活かし、今後はより児童が規格外品について身近な問題だと認識するとともに能登の農業の現状や農業との繋がり、今後、自分にできることを考え、大人になっても実践し続けることができるように、授業の学びや振り返りに重点を置いた授業を作りたい。

6.結論

本研究では、能登半島地震をきっかけに能登地域の課題について考え、農業が盛んな能登において、規格外品の廃棄という問題に着目した。そして、小学生を対象とした授業を実施し、規格外品について正しく理解してもらうことで、見た目による偏見を減らし、食品ロスの削減や農家への支援につなげることを目指した。授業後の振り返りでは、「規格外品も普通の野菜と味は変わらないことを知った」「実際に買ってみたい」といった意見が多く見られ、規格外品への理解や関心を高めるという目標は達成できたと考えられる。一方で、知識を身に付けるだけでなく、実際の行動につなげるための工夫や、規格外品と能登の農業との関係をより深く理解してもらうことが今後の課題である。そのためには、農家との交流や体験活動などを取り入れ、自分自身の生活と結び付けて考えられる学習を行うことが重要である。今回の研究を通して、規格外品への理解を広めることは、食品ロスの削減だけでなく、能登の農家の支援や地域の復興にもつながることを学んだ。今後も、地域の課題を自分事として捉え、一人ひとりができる行動を積み重ねていくことが、持続可能な能登の未来につながることを意識した行動を心がけたい。

7.参考文献・協力団体

山王小学校

本時の計画

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
5	・劇を通して規格外品野菜の気持ち(現状)を理解する。	・劇を鑑賞する	・規格外野菜に当てはまる条件を理解させる
30	・今日の活動の目的を示す。 ・規格外品について説明する。 ・規格外品についてのクイズをする。 ・規格外品のせりゲームをする。	・目的について理解する。 ・スライドを視聴後、その中の質問に答える。 ・規格外品についての理解を深め、廃棄のデメリットについて知る。 ・周囲の人と話し合い、規格品と規格外品の違いを視覚的に捉える。 ・規格品と規格外品の味が変わらないことを理解する。	・伝わるように話すスピードに気をつける。 ・質問に対しての意見を聞く。 ・規格外品についてのクイズを提示し、考えさせ、回答させる。 ・デモンストレーションを通して、ルールを理解させる。 ゲームの中で規格品と規格外品の違いについて気づかせる。

表1